

科目名：日本学メソドロジー実践／ Practical Methods in Japanese Studies

曜日・講時：前期 火曜日 1 講時 文学研究科棟 6F 607 演習室

セメスター：1 学期， 単位数：2

担当教員：オムニバス（尾崎 彰宏 教授 外）

使用言語：日本語

1. 授業題目：

「日本学」への実践的なアプローチに向けて

2. Course Title (授業題目)：

A Practical Approach to New Methodologies of Japanese Studies

3. 授業の目的と概要：

メソドロジー実践科目は、メソドロジー基盤科目を受けて、プログラムに参加している教員が、東北大学の「日本学」をどのように考え、具体的にどのようなアプローチが可能なのか。その研究の具体的な断面を1回ずつ担当することで講じる。このオムニバス形式の講義では、現代に生きる私たちにとって、個々の研究がどのような意義をもつのか、そしてそれがどのような新しい価値の創造とかかわるのか具体的に示されることになる。プログラム生は、これらの実践的な取組みを参考にし、現代の課題に取り組む「日本学」について理解を深めていくことができる。

4. 学習の到達目標：各回、異なる教員による授業を聴講することで、受講者は「活動的生」(*vita activa*)としての学問に対する姿勢を学ぶことができる。とりわけ、現代の課題にどのように向き合うかという視点を意識しながら、学問を思索の対象にとどめず、社会と関わる実践として捉える態度を体得することが、本授業の重要な目的の一つである。現代の課題に取り組むことを通じて、人文社会科学はその知見と方法によって広く社会に貢献しうることも、あわせて示されることになる。こうした経験を通じて、プログラム生自身もその実践の一端を担う者として、自ら課題を設定し、主体的に「日本学」の創造に参加していくことが求められる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 尾崎彰宏 教授
- 2 黒岩卓 教授 「外国文学研究と日本学」 Foreign Literature Studies and Japanese Studies
- 3 長岡龍作 教授 仏教美術史研究と日本学 Buddhist Art History and Japanese Studies
- 4 澤田哲生 准教授 現象学の方法と実践—子どもと患者の分析をつうじて— Method and Practice of Phenomenology – From the Analysis of Children and Patients –
- 5 戸澤英典 教授
- 6 結城武延 准教授 帰納と演繹の間で—経済史を事例として学際領域の難しさを考える— (Between Induction and Deduction: Considering the Difficulties of Interdisciplinary Fields Using the Example of Economic History)
- 7 芳賀満 教授 遺構・遺物から歴史を復元するという方法論及び造形言語という概念 Methodology of Reconstructing History from Archaeological Remains and Artifacts, and the Concept of Visual Language
- 8 ジスク マッシュー 准教授 外国語のテキストを自言語で読む—漢文訓読とその類似現象 Reading a foreign text in your own language: Kanbun kundoku and other similar phenomena
- 9 横溝博 教授 EAJIS での実践報告と日本学
- 10 デレーン アリーン 教授 日本の地域に基づくフィールドワークにおける混合研究方法の活用 Using mixed methods in Place-based fieldwork in Japan
- 11 ローレンゾ マリヌッチ 准教授 異文化的な研究—その方法とチャレンジ Intercultural scholarship: methodology and challenges
- 12 クレイグ クリストファー 教授 「歴史・過去・歴史的な真実」 "History, the Past, and Historical Truth"
- 13 木山幸子 准教授 共感を心理・神経言語学的に探究する Exploration of empathy in terms of psycho-/neurolinguistics
- 14 オリオン クラウタウ 准教授
- 15 大野晃嗣 教授

6. 成績評価方法：

出席50%、レポート（課題「これまで「だれも立てたことのない問い」を自分で設定し論じなさい」（4000字程度））

7. 教科書および参考書：

教室で指示

8. 授業時間外学習：

教室で指示

9. その他：

受講生は、特別授業として、7月15日（火）16:20～17:50に実施される、南山大学のエンリコ・フォンガロ教授による「西田幾多郎と死」を聴講すること。詳細は授業の最初の「序」に譲る。